



「初心を忘れず、  
寛容の心でよりよい奉仕を進めよう」

大船渡西ロータリークラブ  
会長 浜田 浩 誠

大船渡西ロータリークラブも次年度50周年を迎えます。

この50年でこのクラブから2人目のガバナーも輩出し、震災の時も様々な奉仕活動をしてきたクラブの第50代目の会長を務めるにあたり、誠に栄光に存じますとともに身の引き締まる思いでございます。

まだまだ、若輩者ではありますが、名前に恥じないロータリークラブを続ける旗振り役として1年間努めてまいりたいと考えております。

今年度の国際ロータリー会長 バリー・ラシン氏 (EastNassau ロータリークラブ所属バハマ(ニュープロビデンス島)) の方針は「インスピレーションになろう」であります。ロータリーの奉仕は、人々の人生、そして地域社会を変えるものです。真に変化を生み出す奉仕をもっと実現するために、私たちはロータリーでの自分の役割、そして世界におけるロータリーでの自分の役割をこれまでとは違う立場でとらえる必要があります。公共イメージにもっと重点を置き、ソーシャルメディアを活用して会員基盤を築き、奉仕のスケールアップを助長してくれるパートナー組織に注目してもらう必要があります。

一番大切なのは、前向きな変化を生み出し、私たちが今日直面する課題に勇気と意欲を、クラブ、地域社会そして組織全体から引き出すための「インスピレーション」となる必要があるのです。とラシン会長は述べています。

また、国際ロータリー第2520地区ガバナー 田中堯史氏も同様にビジョンの実現にはまず組織作りが必要だと、「ロータリーは、第一に会員制組織です。ですから、奉仕活動を通じてより良い世界を築きたいと願うなら、先ずは、会員を大切にしなければいけません」と述べています。

ロータリークラブは職業奉仕から始まり、クラブ奉仕を経て社会奉仕等へと枝葉を広げています。ロータリークラブの中心は健全な親睦から始まりますが、親睦から広がった様々な奉仕活動が続ける個人の集まりで、その言行は「四つのテスト」から始まります。多様な会員が集い一緒に活動をするのですから、寛容の心を持ちお互いに補ってこそ、より良い奉仕活動ができると思います。

私がこのクラブに入った頃は、例会場に入るたびに気持ちが引き締まる様な、他とは空気感が違いました。今は違います。例会場に入っても何も感じません。あの頃は、「一生懸命何かをする」という気持ちがあったのに今は、「やることをこなす」に変わっている事に気が付きました。

そこで、今年度のクラブテーマを「初心を忘れず、寛容の心でよりよい奉仕を進めよう」と致しました。